

令和 5年度 園評価書

園番号 53 園名 横砂こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない) ☆自己評価の下の数字はクラス担任7名の評価内訳です

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
やさしく たくましい子	笑顔いっぱい 元気いっぱい 明日も 楽しみに 思える子	・好きな遊びをじっくり楽しみ、心が動く豊かな体験を通して想像したり創造しながら遊びを進める姿がある	季節を意識した遊び環境があり、それぞれの好きな場所でじっくり遊びを楽しむ姿がある。豊富な可動遊具を使い、子どもたちなりに、考えたり試したり試行錯誤しながら創造し遊びを進めている。	A	A	・子ども達が興味のある事に対してより掘り下げて興味を深められる様に指導していく様子が見られて、のびのびと遊んでいる子どもの姿がありとても良い環境であると感じた ・全体的にアットホームな園で少人数のメリットがとでも出ている ・以前に比べて、多くの遊びの遊具が園庭に出ていて色々な遊びができて楽しそう	・個々の遊びが充実してきている中で、登園時間に個人差があるので、そこも考慮した関わりをしていく。 ・各クラスの人数が少ないからこそその、保育教諭の関わり方の難しさ・支援が必要な子との統合保育などについて、引き続き話し合いをしていく。 ・子どもの育ちを見ていく中で、“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”を活用しバランスよく遊びを取り入れていく様にする。
		・安心して自己発揮、自己表出しながら、友達と一緒に関わり笑いながら育ち合っている	子どもにより、表出の仕方は様々ながら、保育教諭に思いを受け止めてもらい安心して遊んでいる。日常的に異年齢との交流があり、学年に捉われず自然と関わり、刺激し合い遊びを進めていく様子が見られる。	A	A		
		・全身を使って遊び、様々なことに「やってみよう」と意欲を持ち取り組もうとする子どもに育っている	可動遊具を使い、様々な運動あそびが楽しめる環境があり、乳児も登ったりぶら下がったりと、全身を使い遊び経験ができ、自分なりに挑戦する思いが感じられる。幼児は、ルールのある遊びが盛んになり、発達に合わせた集団遊びを楽しんでいる。	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・各年齢の発達の抑えをしなが、子ども一人一人の発達や経験の差を把握、理解し、それに合った個々へのかわりや援助を行い教育保育を進めている	研究保育や各月の保育の振り返りを通して、各歳児の様子を話す機会を持ち、一人一人の育ちを職員皆で共有し丁寧な関わりにつなげた。発達の様子には、個人差があるので、学年で発達を捉えず、個々の様子に合わせた支援を意識し手立てを工夫している。	B	B	・子ども達の元気で楽しそうな様子や先生の一生懸命さが何うたびに伝わりいつも微笑ましく思う ・保護者の方の評価もよく、先生達が園児に寄り添っている事がよくわかる ・海に近い園である為、防災などに、力を入れていくのが、よくわかる 今後、地図などの変化をその都度修正してもらえると、保護者にとっていざという時に安全で良いと思う	・話し合いの内容をフリーの保育教諭とも共有するように、引き続き発信や伝達の工夫を考えていく ・登園が遅い子、登園状況が安定しない家庭への個別の支援を実施していく。担任だけでなく、事務室や職員間で協力して支援していく ・自然物など取り入れる際は早めに準備し、子どもの興味・関心にタイムリーに対応できるようにしていく ・遊びで使用した素材・用具など、後の片付けまでも、活動として考え工夫していく ・ヒヤリハットの用紙を書く習慣がつくようにする ・分掌を中心に、ヒヤリハットをタイムリーに話し合い確実に参加できなかった職員に周知していく機会をもち共通理解へつなげる
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・ゆったりとした雰囲気の中で、一人一人の生活リズムを整え、安心、安定して過ごせる為の援助や空間の用意がなされている	多様化するの家庭環境に考慮し、職員間で必要な情報を共通し子ども一人ひとりが安心して過ごせる温かな関わりを大切にしている。少人数の良さが活かされ、どの保育教諭も保護者と親しみを持ってかわり温かな雰囲気がある。	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	・子どもの興味や関心を基に、様々な「ひと・もの・こと」に触れながら、豊かな経験を重ねられる環境が用意されている	子どもの興味・関心を常に考え、遊びの中で一人ひとりが何を楽しんでいるかに合わせた環境づくりをしている。必要な環境構成により、経験が繋がっていくようにしている。園内、園外で様々な自然物・環境に触れる機会を持つようにしている。	B	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・安全、安心な環境維持の為安全点検ヒヤリハットの収集をし園内の環境整備をタイムリーに行う・非常時における意識や安全な行動を身につけ自ら判断・行動できるように 計画的に避難訓練や不審者訓練を実施している	不審者訓練では、警察の方に指導頂いた職員の笛や防災ブザーの携帯を実践し、緊急時の早期の全周知に時間を重ね職員危機管理意識も高まっている。・能登の大地震を受け、改めて地震による津波対策を話し合い避難経路を確認した。IAIへの避難経路を全職員が確認する時間をもったしている	B	B	・支援が必要な園児にサポートプランや面談を定期的にする事が、保護者にとって援助になっている ・園児の特性は、関わる全ての職員に理解してもらえたら、園児も安心して過ごせると思う。支援の必要な園児に色々考えている園だと思 ・保育の仕事をより良くしようと、職員が自主的に色々な事に取り組む姿勢を感じる ・お便りを通して色々な遊びの工夫が感じ取れた。季節毎での工夫がされている ・近隣園との交流がある事はすごく良いと思う。今後も継続して増えていくと、刺激を受けられて楽しめると思う	・収穫だけでなく、生長過程も大切に栽培に取り組み、毎日見に行く、ジョロで水かけするなど保育教諭も意識し工夫を考えていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・子どもが自ら考え身体を動かすことができるように環境を作りを行う ・様々な食育活動や栽培を通して、食に関する興味や関心を育んでいる	行事食や身近な食材について、ジュースに入っている砂糖の量や水に溶く野菜など、見てすぐわかりやすいような教材を作り、楽しみながら食への関心を育んでいる。地域の方や、保護者に講師として来て頂き、運動あそびや食材について教えて頂き知識や経験を重ねられた。	A	A		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・一人一人の特性や個性を認め支援計画を立て、職員間で共有しそれに合った支援体制づくりを行っている。ねらいを持ち園内研修を実施し、職員の支援技術の向上に繋げていく	個別の支援計画を作成するにあたり、担当者会議を実施し、職員間で様々な意見を出し合い、支援の幅を広げている。園内研修では、職員で意見を出し合う事で、子どもについて共通理解ができ、会議に参加しない職員への伝達方法を考え、周知するように今後意識していく。	B	B		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	・自分の役割に責任を持ち、各分掌がねらいを持ち年間計画の作成・実施を重ね、組織として協力し合いながら運営をすすめる同僚と温かい関係を育んでいる	後期には、環境プロジェクトとして役割分担をより明確にし、季節や興味関心に合わせて環境構成が実施できた。5時から会議として、保育の振り返りや行事の準備と共に職員のみなども話が出来る、職員間の円滑な連携に繋がっている	A	A	・これから通う小学校へこども園から発信して接続がある事で、子どもや保護者は安心できると感じる ・地域と密着している姿が見られ地域住民としては嬉しい園長先生が横砂自治会の防災訓練や講座に参加され、地域と連携して災害に備えている事が伺え安全管理の意識の高さを感じた。地域の祭りで、保育者が劇を盛り上げてくれたが、良かった	・半年の分掌の進捗状況からの反省や改善点を取り入れていく ・引き続き、5時から会議を実施していく ・研究保育の学びをフリーの保育教諭へ伝達したり見える化して、共有していく ・園内研修では、職員がよい発言しやすいように少人数グループで話し合う機会をもつなど工夫す ・研修報告を会議等で実施していき、学びを伝達し合えるようにする
6 研修	(1)研修体制の充実	・研修テーマ「心情に寄り添った保育者の援助」を常に意識し、子供の姿から思いを考える。年6回以上の研究保育を通して、各自保育の振り返りを環境について考えていく	1月までに全学年の研究保育が実施された。事後の研修では、子どもの遊びの姿を切り取り、その場面の子どもたちの思いや育ち(10の姿など)と照らし合わせて)を考察し、話し合う事で、心情に寄り添う関わりの手立てを深く考えることが出来た。	A	A		
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	・季節に合った遊びや発達に必要な体験が得られるような安心・安全な環境が、園内外に用意されている	朝、園庭整備を毎日実施し、遊び出しの環境を整えている。地域の公園や河川へ出かけて、自然の中でのびのび動き回ったり、自然物に触れて遊んだりして地域の環境を活用し、遊びを充実させている。	B	B		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・お便り、クラスだより、ポートフォリオ等を園から発信し教育保育の理解を促す・保護者面談の他に、育児支援を必要とする家庭や、個別支援を必要とする家庭との面談を随時行う	各行事後のアンケートを、ロゴホームにより保護者が携帯で記入しやすようにし、保護者のニーズをタイムリーにキャッチし保育へ活かせるようにしている。2月には参加と共に、学年ごと懇談会を実施する予定で、クラスでの様子を発信する。	A	A	今年度の実施内容に沿って、来年度の年間計画に取り入れ計画的に近隣園や小学校との交流を進めていく ・おしゃべりサロンの参加が少ないので、散歩などでチラシを配ったり、地域の子育てイベント「カフェげんきっこ」に職員や園児が参加し、地域の子育て家庭の支援に繋げていく	
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	・近隣園との交流が計画的に実施されている(辻・和田島・小島・清沢) ・公開保育を行い、学びや生活の様子を伝えながら、外部との交流を図っている	年長児は、シルエット劇場やその他イベントへの参加を、他園と一緒にに行い、交流を持つようにしている。小学校と連携について、講師を招いて学ぶ機会を持ち、園から小学校への発信を増やし今後、交流へつながる手立てを考えていく。	A	A		
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・奉納相撲大会、花育教室、地域探検・海と仲良しチャレンジなど、横砂地域の方々との様々な交流や活動を通して、地域との接続を意識し教育・保育を進めていく	地域の催事への参加と共に、災害時、園として出来る支援や、連携する点を踏まえて、横砂自治会や近隣企業との交流を大切にしている。日頃お世話になっている地域の方に勤務感謝でカレンダーを作り、感謝の思いが持てるようにしている。	A	A		